

活動内容：

「コミサポひろしま」では、代表である小玉が益城町木山町にベースを設けて活動を続けてきました。本助成を頂いた2017年5月～12月は以下の事業を実施しています。

事業名：「仮設住宅における住環境（住み心地）改善とコミュニティの活性化応援事業

期 間：2017年5月～12月末

内 容：仮設住宅における住民参加型での風除室の設置等を通じた住環境の整備とコミュニティの活性化促進

主な活動場所：上辻仮設団地、馬水東道仮設団地、テクノ仮設団地D区

活動日数：107日

風除室等設置数：仮設住宅 61戸 / みんなの家 2戸 / その他 自宅避難者 3戸

その他活動：一部屋根の補修作業や住民さんの困りごと等に対応（複数件）

連携団体と協力した仮設団地内でのイベントの実施、学校での講演活動等（複数件）

実施に当たって：

事業実施に当たっては、代表小玉が以前建築関連の仕事に従事していたこともあり、住民さんと協議をしながら風除室の設置について、設計から資材調達、施工の各段階を担当するとともに、参加する住民さん、ボランティアさんの安全指導等も実施した。

また、各団地の自治会長さん（テクノ仮設団地についてはD区の自治会長）さんと協議を行い、仮設団地内に不公平感等生まれないよう工夫を行い、十分な住民さんの理解を得てから活動を実施した。すでに、これまでの活動を通して団体に対して安心感がある住民さんも多く、実施に当たっては多くの住民さんから「私にも何かできますか？」「内の棚も直したいけどどうやったらいいですか？」等、一緒に活動を行う環境を作ることができたと考える。

設計・施行について：

風除室の設計にあたっては、各住民さんの意向と住宅入口の構造等を考慮し、「一定の風に対し耐久性が十分確保されていること」「生活面で支障がでないこと（資材のでっぱりや使用するネジ等による衣服のひっかけ等）」「コスト面で割高にならないこと」を検討し設計を行った。施工に当たっては周囲の住民さんへの作業音や迷惑等がかからないことを前提とし、家主さんや周辺住民が作業を一緒に行うことで、閉じこもりがちな住民、特に高齢住民さんが家から外へ出て体を動かす、住民さんとコミュニケーションをとれるよう工夫を行った。

活動にかかる工夫：

活動自体は作業的な要素が強いことから、本来の目的を見失うと単なる大工仕事と成りかねない。そのため、少しの会話でも作業を中断して話すことを大切にした。その結果、コミュニティ内での困りごと等も寄せられ（日常生活のことなどについての簡単な相談「ものを動かしてほしい」等から、「生活の悩み事」等）、外部支援者として話を伺うことで、多少なりとも住民さんの気持ちへ寄り添った活動になったと考える。

その他：

その他の活動として、これまでの活動内で実施してきた「屋根の補修作業」や「片づけ」等の困りごとにも随時対応を行った。
また、普段御世話になっている地域のみなさん向けに「夏のイベント」や「クリスマスイベント」等の実施、連携する団体と学校等での講演も実施を行った。

活動成果：

支援対象者：150名 のべ 1,500人

活動回数：107回

ボランティア：10名 のべ100人

（活動における成果）

① ハード面

・風除室設置における雨風等による生活の不便性の解消（仮設住宅61戸+みんなの家2戸+自宅3戸）

・風除室以外の困りごと対応における生活環境の改善（屋根の補修等 複数戸 + 家屋周りの整備 複数戸）

② ソフト面

・仮設団地内のコミュニティの活性化（上辻仮設団地、馬水東道仮設団地、テクノ仮設団地D区）

例1) 仮設団地内にある「みんなの家」の活動においては、自治会自ら作業を希望する。「住民が使う施設だから、そこに暮らす人で良くしたい」という要望があり、当初は予定していなかった「みんなの家」の活動も加えることとした。これは、当初は想定しておらず、活動を通して住民自身が「何かをしたい」という意識に繋がったと考える。

例2) 1日の活動中で何人もの住民さんが作業を見学、または手伝ってくれる場面が多くあった。また、作業は手伝えないが差し入れを持参してくれたり、話をしに足を運んでくれる姿も良く見かけられた。何もなければ「家にいた」住民さんが、活動を契機に外に出て、団地内でコミュニケーションを図る動機となった。

例3) 活動以外での困りごと等も寄せられ、それらを自治会内で共有すること、また、連携

する団体により対応すること等、外部支援者が仮設団地内で活動することで、住民さん同士を繋げる役割を果たすことができた。

(課題)

・上記のように、当初予定していた一定の成果は果たせたと考えるが、活動を次の仮設住宅団地に移すことによって、継続した関わりが常に持てたわけではなかった。コミュニティの活性化をより図る点では、「風除室」の次のアイデアを住民さんとし合うなど、長い目で見たコミュニティの復興にどのように関わることが出来たかは1つの課題と考える。

・また、特に秋以降の冬季においては寒さにより住民さんの関わりは夏季より少なくなったと考えており、高齢者等が多い実態を踏まえると、その点も別の視点での活動があっても良かったと考える。

・一方で、団体が撤退する12月末に実施した木山での「クリスマスイベント」には300人以上の住民さんが参加してくれており、これは、この活動が住民さん自身に支持をされていたこと、また、それぞれに声を掛け合って参加してくれた姿を見ると、活動の成果もあったと考える。

・地域への引き継ぎについて、熊本市内に在住するボランティアさんに引き継ぎをお願いしているが、冬季の活動自体は住民さんも含め厳しいことから、その結果は現状では把握が難しい。どのような形で「引き継ぎ」となるかどうか、また住民さんが自主的に活動する基盤を作れたかどうか、その点は今後の関わりも含め課題である。

(今後)

・課題を踏まえ、可能な限りこれまで関わってきた地域との関わりは維持する。連携する団体は3月末まで活動を続けることから、地域と連携団体とも情報を共有しながら、地域の応援を続けていく。

・また、資機材等は一部団地内に保管しており、いつでも使える状況にしている。春以降の希望があれば対応を検討したい。

活動の成果（ウェブ掲載用）

事業名：「仮設住宅における住環境（住み心地）改善とコミュニティの活性化応援事業

期 間：2017年5月～12月末

内 容：仮設住宅における住民参加型での風除室の設置等を通じた住環境の整備とコミュニティの活性化促進応援

活動を通し、仮設団地に住む住民さんの生活環境の改善に努めるとともに、住民間での共助等の促進に微力ながら貢献をすることができたと考えます。仮設住宅団地での生活は、住民さんの自宅での生活とは様々な点で不自由があり、当たり前を我慢しなければいけな

いこともあります。「風除室」の設置は、そのような環境を少しでも改善するとともに、活動を通して、住民さんが外に足を運び、作業を通し体を動かす、隣近所で会話をする、そんな些細なきっかけ作りに繋がっていれば考えます。

また、外部からボランティアさんも始め参加することにより、普段とは違う会話も生まれ、活動外の困りごとにも耳を傾けるきっかけとなりました。

寄付者へのメッセージ

熊本地震復興にかかる当団体へのご支援、誠にありがとうございました。

「コミサポひろしま」では、2017年5月より、益城町の複数の仮設住宅団地において風除室の設置等、住民さんやボランティアさんと共に進めてまいりました。

盆地に位置する益城町ですが、夏は暑く、冬は寒さが厳しい地域です。仮設住宅の多くは「プレハブ」で設計されており、必要最低限の住環境は整備されていますが、普段生活を送ってきた我が家に比べればその環境は必ずしも良いとは言えません。

雨の度に室内まで吹き込む雨粒、寒い冬でも扉をあけるとすぐに広がっている生活空間。玄関のスペースや寒さを和らげる緩衝部分は仮設住宅にはありません。

また、「仮設住宅」の生活期間は一般には2年間とされていますが、震災から1年が過ぎ、2年目を終えようとしている今も今後の生活が定まっていない人が多くいます。

「コミサポひろしま」では、そこに暮らす被災者の皆さんが、「被災者だから仕方ない」「今は我慢しないとイケない」そんな状況を少しでも和らげ、不便なく暮らせるために、微力ながら活動を続けてまいりました。

また、活動を通して住民さんどうしのコミュニケーションや助け合いが進むよう、作業だけでなく、可能な限り住民さんを巻き込んだコミュニケーションを大事にしてきました。このような活動を続けてこれたのも、一重に寄付を下された皆様からの支えがあったからだと思えます。活動への支援ありがとうございました。復興への道のりはまだ半ばですが、今後とも皆さんの熊本への支援よろしくお願い致します。